

事務事業名		体育施設等管理運営業務			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	0:6:豊かな心を育む人づくりの推進			事業期間		予算科目				
	施策名	2:9:生涯スポーツの振興					会計	款	項	目	事業
	基本事業名	0:1:スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実									
所 属	根拠法令	大船渡市体育施設条例			☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 昭和30 年度 ~) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度 ~ 年度 全体計画欄の総投入量を記入	01	10	06	01 02 03	19 08 02	
	部課名	教育委員会事務局生涯学習課									
	係 名	体育振興係	電話	27-3111							内線
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) ・体育施設、設備等の維持管理を行う事業。対象となる体育施設は、体育センター、市民体育館、市営球場、市民テニスコート、市民弓道場、田中島グラウンド、三陸体育館、三陸柔剣道場、三陸総合運動公園、三陸B & G海洋センター、市民プール、大船渡市山村広場、河川敷公園多目的広場、河川敷公園少年野球場の14施設で、事業内容は次のとおりである。 施設等の使用許可に関する業務(使用許可申請受付・使用許可書交付)、施設等の維持管理に関する業務(施設・貯水槽清掃業務、浄化槽維持管理業務、夜間警備業務、自動ドア保守点検業務、消防設備点検業務等) ・平成18年度から大船渡市体育協会を指定する指定管理者制度を導入している。 ・事業費は、指定管理料、施設修繕料などに支出される。					全体計画(期間限定複数年度のみ) 総投入量 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計(A) 0 人件費 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計(B) 0 トータルコスト(A)+(B) 0						

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
手段(主な活動)		名称	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		単位	
・施設等の使用許可に関する業務		ア	使用許可件数
・施設等の維持管理に関する業務		イ	
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		ウ	
前年度と同様。			
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等		対象指標(対象の大きさを表す指標)	
・市民		名称	
・体育施設		単位	
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		カ	人口
施設を良好に維持管理し利用に供する。		キ	体育施設数
結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)		ク	
スポーツ・レクリエーション施設が整備されている。		成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
		名称	
		単位	
		サ	体育施設等の延べ利用者数
		シ	
		ス	

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	17年度(実績)	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)
投入量	事業費	国庫支出金	千 円					13,245
		都道府県支出金	千 円	2,000	2,000	2,000	2,000	
		地方債	千 円					
		その他	千 円	3,300	3,794	3,389	2,463	3,070
		一般財源	千 円	65,200	70,361	65,306	85,426	76,430
	人件費	事業費計(A)	千 円	70,500	76,155	70,695	89,889	92,745
		正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1
		延べ業務時間	時 間	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
		人件費計(B)	千 円	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000
		トータルコスト(A)+(B)	千 円	74,500	80,155	74,695	93,889	96,745
活動指標	ア	件	9234	8859	9962	9572	10538	8959
		イ						
		ウ						
対象指標	カ	人	43,702	42575	42158	41684	41334	40537
		箇所	15	15	15	15	14	14
		ク						
成果指標	サ	人	477,227	457,878	514,835	488,423	468,155	478,326
		シ						
		ス						

事務事業ID	0995	事務事業名	体育施設等管理運営業務
--------	------	-------	-------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？			
市営水泳プールが整備された昭和30年から、体育施設の管理運営事業が始まった。			
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？			
・市体育施設の大半が昭和50年代に整備されたものであり、30年以上が経過し、施設の老朽化が目立っている。毎年のように修繕が必要とされる。 ・施設は、スポーツやレクリエーション活動のほか、踊りの練習などの文化活動や地域の防災訓練などにも幅広く利用されている。 ・三陸町との合併により、体育施設が増加し、施設利用者も増えた。 ・平成21年度から、茶屋前テニスコート、フットサルコートについては、港湾経済課の管理となった。 ・施設の老朽化に伴い、平成21年度に市営水泳プールを解体した。 ・東日本大震災により多くの施設が使用できない状況となっている。			
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？			
新築及び大規模改修の要望が多く、市営球場にはナイター照明設備の設置の要望が寄せられている。三陸総合運動公園に設置されているテニスコートの傷みが激しく、改修の要望が寄せられている。			

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由] 施設設備の維持管理を充実することにより、その機能が良好な状態で利用に供されることから、政策体系に結びつく。	
	公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由] 市有施設である。また、市民が安心して快適にスポーツ活動を行ううえで欠かすことができない事業である。	
	対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である [理由] 対象等については、拡大の余地はなく適切である。	
有効性 評価	成果の向上余地	☒ 向上余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない [理由] ・経年劣化による施設等の不具合や突発的な破損・故障が生じやすくなっている。 ・修繕は、緊急性・優先度を考慮して対応しているが、予算の関係で、十分対応できないものがある。 ・予算を増額することにより、施設等の維持管理が充実する。	
	廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容] 事業を廃止した場合、施設等の破損や故障が放置されるため、施設の機能が損なわれ、快適な余暇活動等に支障をきたす。	
	類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない [理由] 他に類似事業がない。	
効率性 評価	事業費の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 老朽化により、施設等の故障や不具合箇所の増加が見込まれることから、事業費削減の余地はない。	
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 施設等の保守点検に係る管理委託に代えて、平成18年度から指定管理者制度を導入した。	
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である [理由] 条例の規定により、使用者から使用料を徴収している。	

事務事業ID	0995	事務事業名	体育施設等管理運営業務
--------	------	-------	-------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 施設の老朽化が目立つことから、緊急度や優先度を考慮し、計画的に施設の改修を行っていく必要がある。 東日本大震災により多くの施設が被災したことから、それらの施設の早急復旧を図る必要がある。																					
<table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり											
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 既定予算内での適切な維持管理に努めるとともに、既定予算で対応できない急を要する修繕等については、補正予算対応とする。 東日本大震災で被災した施設は、災害復旧事業費補助金を導入し、早期に施設復旧を図る。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)																					
		<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上			●	維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上			●																			
	維持			×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 被災した施設が多いことから、災害復旧事業を専門に扱う職員の増員が望まれる。																							

(職名) 原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者

生涯学習課長

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																						
(2) 2次評価者としての評価結果	(3) 評価結果の根拠と理由 概ね適切な事務事業執行がなされている。施設の経年劣化に対応していく必要がある。																					
<table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり										
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																				
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 継続して事務事業を実施する。被災した施設については、災害復旧事業費補助金を導入し、早期に復旧を図るとともに、施設の適切な維持管理を図っていく。																						
(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)																						
<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上			●	維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上			●																		
	維持			×																		
	低下		×	×																		

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
